



社会福祉法人ももその学園の 地域貢献活動への取り組み

インタビュー 代表者：中谷 令

蛭明学区情報	世帯数	1,617 世帯	人口	3,319 人	高齢化率	46.1%
--------	-----	----------	----	---------	------	-------

■活動開始時期

平成 29 年度～

■活動内容

- ・ サロン活動
- ・ 買い物送迎
- ・ 小旅行等の余暇時間の提供
- ・ 田畑の活用

■活動対象者

周辺地域の高齢者、住民

■活動の頻度・時間

- ・ サロン活動：月 1 回 1 回あたり 120 分
- ・ 買い物送迎：月 1 回 1 回あたり 120 分
- ・ 小旅行等：不定期
- ・ 田畑の活用：毎日
(生活介護の活動の一環として取り組み)

■活動のきっかけ

ももその学園は岡山市北区粟井という山間部に法人を構えています。周辺地域はのどかな田園風景の広がる豊かな土地ではありますが、住民は高齢になり、独居の方も増えています。そのため田畑の管理が難しくなっていたり、外出や顔を合わせて会話をする機会も減っている状況です。

そのため、日ごろお世話になっている地域への恩返しのような意味合いから地域貢献を始めました。

■活動内容

〈サロン活動〉

法人が主催して行っている活動（粟井地域）と、地域で行われているものに参加する活動（間倉地域）と 2 種類あります。

粟井地域のサロンについては茶話会が主な内容となっています。参加される方と雑談をしたり会話の中で日々の困り事を伺ったり、また、看護師が同席していることから、健康維持に係る話や健康につながる食生活の話などもお伝えしています。地域住民の参加人数は平均 5 名程度です。

間倉地域のサロンに参加する際には、買い物送迎の日程調整や参加確認、看護師による健康体操などを行っています。

〈買い物送迎〉

月 1 回、間倉地域のご希望の方のみ近隣スーパーへ送迎を行っています。施設の公用車に乗り合わせて行き、買い物は各自で行っていただきます。

〈小旅行等の余暇時間の提供〉

平成 30 年度は「後楽園で紅葉狩り」、令和元年度は「高松城址公園で花見」といった内容で行っています。平成 30 年度に試行というかたちで後楽園へ赴いたところ、地域の方より「また行きたい」というお声があって、平成 31 年度はお花見を企画しました。あまり遠出をされない方も多いため、好評のようです。

〈田畑の活用〉

耕作放棄地を生まないという観点から、地域の方とやりとりし、田畑を無償で借り受けて、主として生活介護事業の活動の一環で農業を行っています。

地域住民の方々に教を請いながら農業を進め、収穫物は行政が推進する「ノウクマルシェ」などにも出店しており、また、食育の一環として法人で提供する給食などに活用されています。



■活動の効果

あくまでも事業ではなく、地域を支えるというコンセプトで行っている活動であるため、直接的な施設利用につなげるなど明確な活動効果を得ることを目的とはしていません。

しかしながら、地域住民の方と顔を合わせて会話をすることで、施設と住民の方との距離が近くなり、一層コミュニケーションがとりやすくなった点は活動効果として挙げられます。

また、定期的集まりコミュニケーションをとりあうことにより、独居の方のご様子を把握でき、地域へ気を配るという点では、十分に目的を果たしていると感じています。

農業面では、地域住民の方もオブザーバーとして貢献していただいております、今に至るまで培ってきた技術やノウハウを継承してくださっています。

そうして出来た米や農作物についてご評価いただいたり、栽培のコツなどを教えていただいたりして、より地域との距離が近くなり、互いに貢献しているという実感を得ることで、ポジティブな関係を保つことができていると感じます。

施設を利用する方々にも、農作業に取り組むことでいきいきとした表情が見えています。

■今後の課題

すべての活動において、マンパワー不足が否めない状況です。どうしても同じ職員に負担が偏りすぎることになり、業務時間内での対応が難しくなっている部分もあるところが課題となっています。

また、活動としては小規模であり、明確なニーズ調査を行っているわけではないため、ニーズ調査不足感もあります。

そのため職員、地域住民ともに参画意識の向上を行わなければ、いずれ縮小してしまう可能性があるため、今後は提供プログラムや職員体制について工夫する必要があると感じています。

